

科目名	発達臨床特論 I	担当教員	西永 堅
科目属性	専門科目 C	単位数	2単位(面接 0.25 単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>従来の通常教育では平均的・標準的な発達を念頭に行われており、障害があるものに対しては特殊教育が行われてきた。しかし、脳認知科学の発展により、身体発達や運動発達だけではなく、知的発達、認知発達にも大きな個人差があることが明らかになってきた。障害のあるなしでは児童・生徒を二分できず、それぞれ一人ひとりのニーズに合わせた教育支援が必要とされる時代になった。本科目では、一元論の思想であるインクルージョンの理念の実践を目指し、発達の個人差を前提とした、個人のニーズに合わせた発達臨床研究の理論と実践を学ぶ。</p> <p>なお、発達臨床特論 I と発達臨床特論 II の履修順序は問わない。</p> <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の 3 つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理想的・精神論的なアプローチではなく、合理的な方法で共生社会・インクルージョン社会を目指すために、エビデンスに基づいた指導法を学ぶ。 2. さまざまな障害を客観的にアセスメントする方法を学ぶ。 3. 指導法の効果を客観的に評価できるようになる方法を学ぶ。 			
<p>【授業計画】</p> <p>・エビデンス・ベースドの理念を学ぶ (第 1 回～3 回相当)</p> <p>応用行動分析学では、「自閉症」という用語は何も説明していないと考える。つまり、「自閉症」という一つの語よりも、具体的に、特定の行動の頻度が高かったり、特定の行動の頻度が低いといった行動レベルで観察していくことを重要視し、それらの行動を変容していくことを目指している。ADHD だから多動ではなく、多動だから ADHD と診断されていることを理解する。</p> <p>2. 機能分析を学ぶ (第 4 回～8 回)</p> <p>上記のように応用行動分析学では、問題行動の理由として障害名をあげない。かならず、その問題行動は、何らかの結果事象によって維持されていると考える。先行刺激と結果事象を分析することにより問題行動を減少させ、適切な代替行動を増やすことにより、非嫌悪的アプローチでさまざまなニーズのある子どもたちに対してインクルージョンを目指した教育を行うことができることを学ぶ。</p> <p>3. 結果のまとめ方を学ぶ (第 9 回～11 回)</p> <p>行動の記録は応用行動分析学においてとても重要なことである。応用行動分析学は、従来から行動の測定方法を研究してきた。それらを学ぶことにより、設定した行動目標の妥当性を検討でき、より科学的なアプローチを行うことができる。</p> <p>4. 言語発達の支援を学ぶ (第 12 回～15 回)</p> <p>自閉症などの発達障害がある子どもたちに限らず、言語の発達は対人関係や社会性を学ぶことにおいても最も重要なことであると考えられる。応用行動分析学の立場から言語発達を学び、言語発達の支援を学ぶことが重要である。</p> <p>5. スクーリングでは、提出したレポートの内容に関する討論、ならびに、関連文献の講読に関する発表を行う。</p> <p>6. 科目修得試験</p> <p>レポート作成ならびに、スクーリングの内容を通じた理解を試す試験を行う。</p>			

【評価方法】

レポート 30%、スクーリング 30%、科目修得試験 30%、その他 10%で、総合評価を行う。

【教科書】

Mickey Keenan (原著), Karola Dillenburger (原著), Ken P. Kerr (原著), 清水直治監訳, (2005).
「自閉症児の親を療育者にする教育—応用行動分析学による英国の実践と成果」, 二瓶社.
ISBN:4861080274

【参考図書】

Parents' Education as Autism Therapists: Applied Behaviour Analysis in Context Jessica Kingsley publishers 2002 (テキストの原著)

Applied Behaviour Analysis and Autism: Building a Future Together Jessica Kingsley publishers 2006

Effective Programs for Treating Autism Spectrum Disorder: Applied Behavior Analysis Models, Routledge 2011

R. J. コーレンバーグ, M. サイ, Robert J. Kolenberg, Mavis Tsai, 大河内 浩人 (翻訳). (2007).
「機能分析心理療法」, 金剛出版.

Journal of Applied Behavior Analysis (行動分析に関する文献が手に入ります.)
<http://www.jeabjaba.org/index.html>